

千葉市感染症発生動向調査情報

2024年 第5週 (1/29-2/4) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	定点	5週	4週	3週	2週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの報告数 「定点当たりの報告数」とは 報告数/報告定点数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	*インフル/COVID	28	28	28	28
	基幹	1	1	1	1

*正式名称は
インフルエンザ/COVID-19定点

定点	感染症名	注意報	千		葉		市		千葉県
			1/29-2/4	1/22-1/28	1/15-1/21	1/8-1/14	1/22-1/28		
			5週	4週	3週	2週	4週		
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	0	0	32	
	咽頭結膜熱		9	4	13	17	103		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓↓	71	100	106	60	726		
	感染性胃腸炎	↓↓	141	196	168	127	1,102		
	水痘		0	1	6	2	13		
	手足口病		0	1	0	0	4		
	伝染性紅斑		0	0	0	1	2		
	突発性発しん		6	8	3	3	32		
	ヘルパンギーナ		0	1	0	0	1		
	流行性耳下腺炎		0	1	1	1	7		
*インフル/COVID	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く)	★↓	487	498	549	388	5,296		
	新型コロナウイルス感染症	↓	317	332	244	159	4,196		
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	1		
	流行性角結膜炎		1	3	1	3	25		
基幹	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0		
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0		
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0		
	無菌性髄膜炎		0	1	1	0	2		
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0		

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

「流行中」 流行発生警報開始基準値以上

「やや流行中」 流行発生注意報基準値以上、又は流行発生警報開始基準値を下回った後に流行発生警報終息基準値以上

2 全数報告対象疾患: 12 例

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法	
結核	女性	20歳代	IGRA検査	結核	女性	80歳代	病原体等の検出	
	男性	20歳代		E型肝炎	男性	60歳代	血清IgA抗体の検出	
	女性	20歳代		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性脳炎	女性	50歳代	細菌の分離・同定及び薬剤耐性の確認
	女性	20歳代				女性	10歳未満	中枢神経症状
	男性	50歳代	病原体の検出等	男性	70歳代	高熱、中枢神経症状等		
	男性	80歳代	画像検査	-	-	-	-	

・第5週は、結核8例(19)、E型肝炎1例(3)、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症1例(1)、急性脳炎2例(3)の発生届が揃った

※ ()内は2024年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第5週のコメント

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

前週より減少し3.94となったが、過去10年の同時期と比べると最多のまま。年齢階級別の報告数は6歳が最多。区別では、緑区(6.00)が流行発生警報終息基準値(4.0)を上回り最多で6歳の報告が最も多かった。

<感染性胃腸炎>

前週より減少し7.83となった。過去10年の同時期と比べるとやや多く、年齢階級別の報告数は3歳が最多。区別では、緑区(19.75)からの報告が最多で3歳の報告が最も多かった。他に若葉区(14.00)が流行発生警報終息基準値(12.0)を上回った。

<インフルエンザ>

前週よりやや減少し17.39となったが、依然として流行発生注意報基準値(10.0)を回ったまま。過去10年の同時期と比べると少なめ。10歳未満の年齢階級別の報告数は8歳が最多。区別では、中央区(23.00)が流行発生警報終息基準値(10.0)を上回り最多で10歳未満では6歳の報告が最も多かった。他の5区は全て流行発生注意報基準値を上回った。

<新型コロナウイルス感染症>

前週よりやや減少し11.32となった。年齢階級別の報告数は10-14歳が最多。区別では、中央区(24.80)からの報告が最多で10-14歳の報告が最も多かった。

■ 「過去10年との比較グラフ」及び「区別の発生グラフ」はWebSiteでご覧いただけます。

・ 過去10年との比較グラフ

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph2023.pdf>

・ 区別の発生グラフ

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph_ward2023.pdf

■ トピック ■

<新型コロナウイルス感染症>

2024年第4週現在の全国の定点当たりの報告数は14.93で、前週(12.23)より22.1%の増加となっています。都道府県別では、福島県(23.94)が最も多く、次いで愛知県(21.24)、茨城県(21.15)の順となっています。千葉県は20.88で、全国で7番目の多さとなっています。年齢階級別報告数では、報告数全体に占める10歳未満の割合が増加しており、第1週は半数未満(報告数9,755例中4,261例、43.7%)でしたが、第4週は7割以上(報告数32,769例中23,305例、71.1%)となっています。

千葉市では2023年に第36週でピークを迎えた後第46週まで減少し、その後緩やかな増加傾向となっていました。2024年第2週から急速に増加しました。第5週は前週よりやや減少し、11.32となりました(図1)。第1週から第5週まで、定点からの報告数は男性543例(47.8%)、女性592例(52.2%)の1,135例でした。年齢階級別では5-9歳が最も多く(173例、15.2%)、次いで10-14歳(166例、14.6%)、0-4歳(146例、12.9%)の順となっており、特に第4週と第5週にかけて増加しています(図2)。

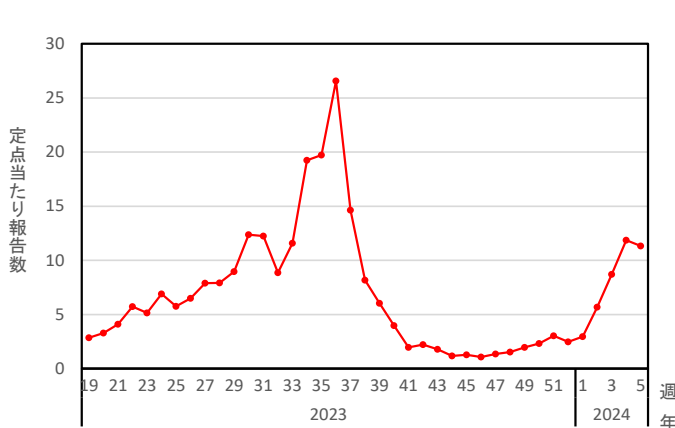


図1 定点当たりの報告数
(2023年第19週-2024年第5週)

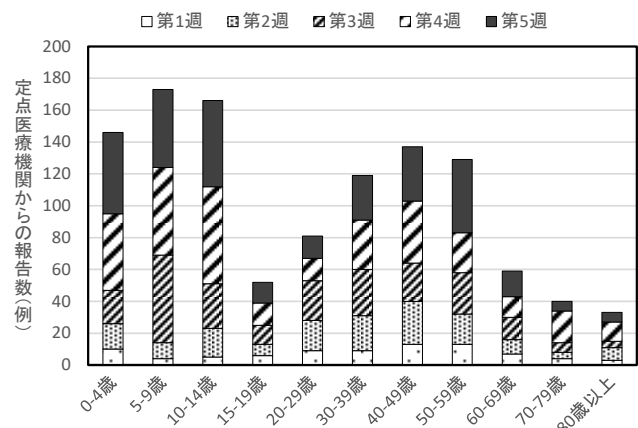


図2 年齢階級別・週別報告数
(2024年第1週-第5週 n=1,135)

新型コロナウイルス感染症の基本的な感染対策は、換気、手洗い等の手指衛生、「三つの密」の回避、人と人の距離の確保、効果的な場面におけるマスクの着用が挙げられます。

詳細は、下記URLをご参照ください。

「新型コロナウイルス感染症の基本的な感染対策について」

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/seisaku/covid-19_kansenntaisaku.html